

# HIMALAYA

## ヒマラヤ No. 172

特集 インドヒマラヤ1985年



**1986 MARCH**

**日本ヒマラヤ協会**



THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN — HAJ



〈 特別企画 〉

# 中国の秘境「九寨沟」「黄龍寺溪谷」の旅

— 四川省・岷山山脈麓トレッキング —

「九寨沟」「黄龍寺溪谷」は、四川省北部に、甘肅省との境を成す岷山山脈の麓にある、中国でも第一級の景勝地です。無数に存在する真青な湖と真白な滝が美しい調和を見せる「九寨沟」、水の流れが長い年月をかけて造りだした自然の芸術品「黄龍寺溪谷」は、これまで外国人には未開放の地でしたが、86年にH A Jのために特別開放されることになりました。トレッキングの基地となる町「松藩」の歴史は古く、春秋時代に溯ると言われています。歴史的にも興味のあるところです。



▲九寨沟の滝

1. 時期 1986年7月25日(金)～8月10日(日) 17日間
2. 定員 15名
3. 費用 約60万円
4. 行動概要 北京 — 成都 — 松藩

トレッキングは、松藩を基地として九寨沟黄龍寺溪谷へ、それぞれ往復2～3日の行程です。四川省登山協会、松藩体育委員会のメンバーとの親睦会も予定しています。

北京—成都間は、往路あるいは復路に鉄道の旅を予定しています。



▲黄龍寺、自然の芸術品

## 表紙写真

カラコルム中西部、ギルギットからスカルドへと向うインダス河沿いのハイウェイからわずかの距離に聳えるハラモシュは、コティア・ルンマ、イスカバル、マニと、小さいが急峻な3つの氷河の源頭である。この切手は北側からのもので、東へと4つの頂をもつマニ・ピークが続く。

## ヒマラヤ No. 172

1. 第7回インド・ヒマラヤ会議報告
2. **特集** インド・ヒマラヤ 1985年
17. ヒマラヤニュース <地域ニュース・インフォメーション>
19. トータル獲得標高 1985 ————— 山森欣一
24. 事務局日誌・寸感

# 第7回 インド・ヒマラヤ会議報告

1986. 1. 11 ~ 12

今年で第7回目を重ねた、恒例のインド・ヒマラヤ会議はゲスト・スピーカーとしてインド登山財団（IMF）副総裁のN. D. Jayal氏をお迎えして東京で開催された。会場には'86年の登山隊12隊、'85年の登山隊3隊など全国各地から参集され41名の参会者となった。

日時 1月11日（土）13時～12日（日）12時  
会場 目黒さつき会館

会議は先ず、主催者側として遠藤副会長より開会の挨拶がなされた後、山森常務理事より会議日程の説明、参加者紹介があって会議日程に入った。

## 「1985年のインドヒマラヤ総括」

尾形常務理事より1985年のインドヒマラヤの入山状況、遭難事故、新解禁峰、登山規則の変更等について説明があった。

また、IMFからの要望としてリエゾンオフィサーについて以下の伝達があった。

- 1) インドのリエゾンオフィサーは全てボランティアで参加してくれる事を理解してほしい。（IMFで給金を払って来て貰っている訳では無い）
- 2) インド人との食生活の違いを理解して、L/Oの食べれる食糧も持参してほしい。
- 3) 登山規則で定められている装備は必ず持参して、L/Oが登りたい意向を示した時は、その意向を受入れてほしい。

## 「許可取得から出発までの問題点」

HAJ刊行の「インドヒマラヤの手引」に基づいて渉外業務全般にわたる実務面について尾形常

務理事より説明があった。

登山料の送金上の注意点、エントリービザの取得、隊荷の発送と荷受、トランシーバーの許可取得等について実例を混じえて詳しい説明があった。

## 「現地情報」

現地の最新情報として'85年に出かけられた次の講師の方々にパネラーになっていただき各地域の情報がもたらされた。

堤 信夫氏（U・P. ガンゴトリ山群）、知久隆氏（H・P. CB山群）、沖 允人氏（J&K、カシミール、東部カラコルム山群）

各地域の交通、ポーター、ポニー事情、購入品の入手事情、現地のデポ及び貸装備についてなどそれぞれ報告があった。

## 「1985年登山隊報告」

夕食後、スライドを混じえながら次の登山隊報告がなされた。

- CB13a（国鉄大宮工場山岳部隊）
- 無名峰（マンダとブリグパントの間）（同人ビッグウォール隊）
- サセル・カンリII峰（日印合同隊）

## 「ヒマラヤ登山の事故防止対策」

第2日目は、山森常務理事よりヒマラヤ登山の事故要因と対策について説明が行なわれた。

## 講演「インドヒマラヤの展望」

ゲスト・スピーカーのN. D. Jayal氏の講演要旨は、次号で紹介します。

以上、閉会 12日正午

# インドヒマラヤ1985年

## 総 括

インド登山財団（IMF）によれば、1985年にインドヒマラヤを目指した登山隊は、外国隊が61隊、インド隊が86隊の合計147隊で、1984年の登山隊総数を上回った。外国隊のうち16隊が日本で、以下イギリスが11隊、フランス、西ドイツが8隊と続く。

これらの登山隊を地域別に見てみると、ウッタール・プラディッシュ（U・P）州が81隊、ヒマチャル・プラディッシュ（H・P）州が34隊、ジャム&カシミール（J&K）州が32隊となり、相変わらずガンゴトリ・エリアの人気は高い。

外国隊61隊のうち半数以上の33隊が登頂に成功し、東部カラコルムのサセル・カンリヤリモ山群では7峰の初登頂が成された。

## 第3回ヒマラヤ登山観光会議

インド登山財団（IMF）とインド旅行協会が主催し、インド政府観光局、エア・インディア、ウェスト・ベンガル州政府などが共催する第3回ヒマラヤ登山・観光会議が、山の街ダージリンで'85年5月15日から3日間開催された。

出席者は、15ヶ国から約400名が参会され、インド以外からの参加者はアメリカ、イギリス、ソ連、日本、ニュージーランド、ブータン、ネパールなどから約75名であった。本会からは日印合同サセル・カンリⅡ峰隊の日本側隊長・沖允人氏がH A Jを代表して出席された。

会議は、ダージリンの街の中心部にある公会堂

とも云うべき「Convention Center, Bhanu Bhavan」を主会場に行なわれた。

第3回ヒマラヤ登山・観光会議のメインテーマは、「南アジアにおけるヒマラヤ観光」、「ヒマラヤの環境保全」及びインド隊のエベレスト登頂30周年記念であった。

尚、1986年の第4回集会は、ヒマチャル・プラディッシュ州のマナリで9月21日～23日に開催されることに決り、H・P州観光局及びIMFでは日本からの多数の参加者を希望している。

## 遭難事故

'85年のインドヒマラヤでは、トレイ・サガル、ケダルナート、サセル・カンリⅡ峰、ディオティバ、それにガンゴトリのタポバンなどで5件の遭難事故が起り、日本人2名、ポーランド人1名、インド人2名がそれぞれ死亡した。別表の「インドヒマラヤの日本隊による遭難事故の実態」を参照されたい。

## 〈現地事情〉

### インド領カラコルムのオープン

IMFでは、1985年2月6日付で外国登山隊に対して待望久しいインド領カラコルムのオープンを発表した。オープンされたのは16峰（インディラ・コルを含む）で、これらの新解禁峰は次の3つのグループに分けられている。

#### —Aグループ—

- 1.サセル・カンリⅠ（7,672 m）
2. " Ⅱ（7,513 m）

- 3.サセル・カンリⅢ (7,495 m)
- Bグループ —
- 4.マモストーン・カンリ (7,526 m)
- 5.リモ・ピーク (7,385 m)
- Cグループ —
- 6.アプサラサスⅠ (7,245 m)
- 7. " Ⅱ (7,239 m)
- 8. " Ⅲ (7,230 m)
- 9.テラム・カンリⅠ (7,465 m)
- 10. " Ⅱ (7,406 m)
- 11. " Ⅲ (7,381 m)
- 12.シング・カンリ (7,202 m)
- 13.ゲントⅠ (7,401 m)
- 14. " Ⅱ (7,343 m)
- 15.インディラ・コル (5,760 m)
- 16.シア・カンリ (7,422 m)

(高度はIMF発表による)

但し、オープンされたと言ってもこのエリアが従来通りの厳しいコントロール・エリアであることに変わりなく、入城に際しては幾つかの条件が付与されている。

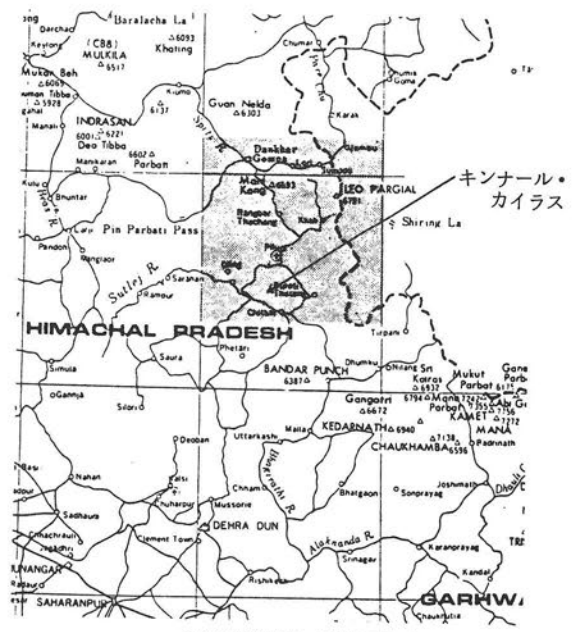
先ず、登山隊数であるがこの新解禁峰の登山許可は、A、B、C各山群とも1年に1山群1隊ずつ交付されるとの事。

次いで許可条件としては、次の4項目を満す必要がある。

— 登山許可条件 —

- 1) 登山隊はインドとの合同隊でなければならない。
- 2) 合同隊の外国側メンバーは、7名を越えない人数とする。
- 3) 外国側は登山料を2,000ドル支払わなければならない。

その他の新解禁山域としては、フランスとインドの陸軍合同隊がシッキム側からカンチェンジュンガに挑むと云われ、いよいよシッキムの山々も合同隊に対してオープンかと期待されたが、最終段階でこの計画は没になり、同合同隊はカメットの西壁に転進を余儀なくされてしまった。まだまだシッキム(ゴチャ・ラ以北)のオープンは難しいようである。



学研「世界山岳地図集成」より転載

従来のオープン・ピーク以外で登山許可が交付された山にキンナール・カイラス(6,473m)がある。これはH・P州観光局の肝入れでHAJとインド女性との合同隊に許可されたものである。日本側の都合に依り、実施は1986年の夏に延期された。サトレジ河とバスバ谷の間に聳えるキンナール・カイラスは、1974年にインド隊によって登られているが、この地区はインナーラインにかかる為、これまで外国隊の入城は許されていなかった。

登山料のレート変更

1985年の登山隊から、従来ルピー建てだった登山料がドル建ての新レートに改定され適用された。

— 新レートの登山料 —

6,000 m 以下の峰	400ドル
6,001 m ~ 6,500 m の峰	600ドル
6,501 m ~ 7,000 m の峰	900ドル
7,001 m 以上の峰	1,200ドル
ヌン、クン	1,500ドル
カラコルム山群	2,000ドル

昨年はこの新登山料の払い込みについて2~3のトラブルが起った。

従来、登山料の払い込みは、日本の銀行からデリーの仕向銀行へ電信又は郵便に寄る外国送金で払い込まれており、通常は「通知払」と云う種類で送金されていた。これは送金が到着すると支払



銀行は受取人（IMF）に送金の到着を通知した上で支払われるもので、この場合、送金者がドルで送金しても支払銀行では、通常その国の通貨（インドの場合、ルピー）で支払われる。（但し、外国人がドルで送金を受けた場合は、希望すればドルでも受取れる。）

昨年、従来の送金方法で登山料を払い込まれた登山隊に対して、IMFから「登山料はドル建の新レートに改定されたのでドルで支払ってもらいたい。また、送金方法としては銀行小切手が望ましい。」との要望があった。

インドの外国為替事情は良く判らないが銀行小切手の場合はドルで受取ることが出来るのであろうか、いずれにしろIMFとしてはドルをほしがっていることは確かなようである。

銀行小切手の場合、郵送中の事故が心配されるが、IMFでそれを希望するのであれば、それに従わなければならないであろう。

### ウォーキー・トーカー

インド政府は、インドヒマラヤに向う登山隊の特典の1つとしてウォーキー・トーカーの持参を認めているが、これ迄許可されてたウォーキー・トーカーの性能範囲（出力～2W以下、周波数～26,965～27,255MHz）では入山中の交信機器としては余り役立たないため、登山隊からIMFに

対してもう少し性能アップしたウォーキー・トーカーの使用を認めるよう要望がなされていた。

これらの要望を受けて、IMFでは1985年11月26日付文書にて通信省に対して、登山隊が山中で使うウォーキー・トーカーの出力、周波数が下記のものも使えるよう、早急に認可してくれるように要請した。

（周波数）	（出力）	（場所）
150,175 MHz	} 1 W	ヒマラヤ山域
150,900 "		
26,968 "	} 0.5 W	インド国内
26,976 "		

### ビザ交付料の変更

エントリー・ビザの交付料は、従来、シングル、ダブル、トリプルの種類に依って異なり、ダブルの場合、シングル（660円）の2倍（1,320円）、トリプルの場合、3倍（1,980円）であったが、昨年からはシングル、ダブル、トリプル（マルチ）の種類にかかわらず一律660円となった。

昨年もまた、エントリービザの交付が遅れたため出発を遅らせざるを得なかった隊が2～3隊あった。毎度の事乍らエントリービザの申請については、十分に時間的余裕を持って申請するのが望ましい。

## 1986年インドヒマラヤ日本隊一覧

山名	高度	期間	派遣団体名	隊長名	隊員数
ヌクン	7,135 m 7,077 m	9月～10月	東洋大学山岳部		
ブラマー I ブラマー II	6,416 m 6,425 m	7/30 9/30	独協大学山岳部	柳沢幸慶	3
ハッタル	6,220 m	7/3～8/25	岐阜大学山岳部	寺田晃	5
トダ	6,550 m	7/20～8/24	東京都高体連	高橋清輝	15
パプスラ	6,451 m	7/20～8/末	静岡ソサエティー	松永義夫	4
K R 6	6,187 m	7/20～8/31	越稜山岳会	長谷川昭一	5
サトパント	7,075 m	7/26～8/24		松本正城	
トレイサガール	6,904 m	5/25～6/30	山岳同人一同心	木内聡	
"	6,904 m	8/26～9/30	登嶺会	宮原末男	
シブリン	6,543 m	5月～6月	きんたろう山の会	石井清	3

— 1985年インド・ヒマラヤ日本隊の記録 —

山名	高度	期間	登山隊	隊長	隊員	結果
サセル・カンリ2峰	7,518 m	7/中～9/下	東部カラコルム日印合同隊	沖 允人	503	9/7、インド側隊員4名が西峰に初登頂
ヌン	7,135 m	7/21～8/20	川崎市教員登山隊	坂原忠清	4	西稜から8/15に全員登頂
ヤン	6,230 m	7/28～8/23	滋賀県高体連登山隊	国松嘉伸	19	北東稜から8/8、9、10日の三次にわたり14名が登頂
カンガラチャ	6,150 m	7/29～8/23	静岡県高体連登山隊	生越義雄	14	8/12、13、17の三次にわたり全員登頂
メントーサ	6,442 m	7/21～8/31	桐生山岳会女性隊	森下 緑	4	8/12に6名全員登頂(H.P及びキッチンボーイの2名含む)
C B 13 a	6,240 m	8/1～9/5	国鉄関東山岳連盟隊	知久 隆	3	北稜から8/10に全員登頂
K R 2	6,187 m	7/24～8/28	みちぐさ山の会隊	井口久雄	7	南東稜から8/16に6名が登頂
K R 4	6,340 m	7/28～8/20	東芝山岳会隊	根岸喜明	11	北面から8/15に4名が登頂
ディオテイバ	6,001 m	7/28～8/20	松江アルペンクラブ隊	高木健司	6	南面から挑んだが断念
ハヌマンテイバ	5,928 m	9/1～9/30	女子登攀クラブ隊	倉松由子	3	東面から9/14に3名が登頂
トレイサガール	6,904 m	8/1～8/25	東京雲稜会隊	瀧島久光	6	ブリグバントの高度順化訓練中、雪崩に遭遇し断念
"	6,904 m	8/15～9/25	クラブ・ポリニエ隊	横川幸司	6	北壁の6,100 mで断念。隊長が転落死亡
ケダルナート	6,940 m	9/10～10/30	須磨山登山隊	岩佐正敏	6	10/8に5,100 m付近で雪崩事故が起り、隊員1名行方不明
シブリン	6,543 m	9/1～10/15	秀峰登高会隊	浅田晋平	3	東稜から挑んだが失敗
スダルジャン・バルバット	6,507 m	8/22～10/7	わらじの仲間隊	森実 裕	7	東稜から9/27、28の二次にわたり登頂
無名峰(マンダ・ブリグバントの間)	6,529 m	9/13～10/10	同人ビッグウォール隊	堤 信夫	3	南壁からの初登頂を目指したが5,050 mで断念した

インドヒマラヤ1985年外国隊の記録

山名	高度	国名	期間	隊長名	隊員数	結果
リモ3峰	7,233 m	英・印合同	6 / 1 ~ 7 / 30	Harish Kapadia	11	初登頂(北東稜)
サファイナル	5,975 m	"	"	"	"	" (西稜)
スンドラール	6,300 m	"	"	"	"	" (西稜)
ラーリモ	6,070 m	"	"	"	"	" (南稜)
リンデイ	6,480 m	"	"	"	"	" (西稜)
ドアブ	6,045 m	"	"	"	"	" (南稜)
スン	7,135 m	西ドイ	5 / 20 ~ 6 / 15	Otto Zaha	5	× (北稜)
"	"	アメリ	6 / 15 ~ 7 / 15	James Balog	5	× (北稜)
"	"	フ랑스	7 / 1 ~ 7 / 31	Steinmar Gunther	10	○ (西稜)
"	"	フ랑스	8 / 1 ~ 8 / 31	Bernhard Ehinger	4	○ (西稜)
"	"	フ랑스	8 / 1 ~ 8 / 31	Boyer Jean Pierre	9	○ (東稜)
"	"	スベイ	9 / 1 ~ 10 / 1	Carlos Sole Estabelle	17	○
クン	7,077 m	フ랑스	7 / 1 ~ 7 / 31	Marquis Dominique	15	○
"	"	"	8 / 1 ~ 8 / 31	Jean Pierre Bernard	10	○ (東面)
"	"	西ドイ	8 / 1 ~ 9 / 9	Hasenkopr Arnold	17	○ (西面)
"	"	"	9 / 1 ~ 9 / 30	Gernot Waschek	4	× (東面)
"	"	オーストリア	10 / 1 ~ 10 / 31	G. Mayr	5	× (東面)
ピナクル・ピーク	6,930 m	フ랑스	7 / 20 ~ 8 / 30	J. Claude Souberbielle	7	×
"	"	"	9 / 1 ~ 9 / 30	Marc Prat	8	○
"	"	オーストリア	10 / 1 ~ 10 / 27	K. R. Zwicky	6	○
シクルムン	6,574 m	イギリス	8 / 20 ~ 9 / 30	J. R. Peart	4	×



カン・イセー	6,400 m	オーストリア	7 / 1 ~ 7 / 31	A. Sattler	7	○
"	" m	西ドイツ	7 / 22 ~ 7 / 15	Qberbichler Dieter	—	×
"	" m	"	8 / 12 ~ 9 / 5	Kampfe Gunter	10	○
ハグシユン	6,330 m	イギリス	8 / 3 ~ 9 / 27	Mike Rosser	8	×
チリ	6,100 m	アメリカ	8 / 27 ~ 10 / 8	John Thackray	3	×
マソ・カンリ	6,000 m	フランス	7 / 8 ~ 8 / 25	Marc Scherrer	3	○
M-4	6,517 m	イギリス	7 / 15 ~ 8 / 30	Mark Hallam	2	×
パプスラ	6,451 m	オーストラリア	8 / 15 ~ 9 / 20	Philip Pitham	4	×
ホワイトセー	6,445 m	イギリス	8 / 15 ~ 10 / 10	Alan Hinkes	4	○
メントーサ	6,443 m	"	8 / 21 ~ 10 / 1	Major S. A. Bassnett	12	×
無名峰	6,141 m	"	7 / 15 ~ 9 / 15	Peter Smith	6	×
"	6,150 m	"	"	"	"	○ ( " )
カメット	7,756 m	仏・印合同	8 / 20 ~ 10 / 20	Col. B. S. Sandhu	32	○ (西壁)
トリスル1峰	7,120 m	西ドイツ	5 / 15 ~ 6 / 30	Ludwing Nube	3	×
サトパント	7,075 m	イタリヤ	7 / 20 ~ 9 / 30	C. B. Ceasare	15	○
ケダルドム	6,830 m	"	"	"	"	○
ケダルドム	6,830 m	オーストラリア	5 / 15 ~ 6 / 25	Graham Hardy	2	○
"	" m	イタリヤ	7 / 20 ~ 9 / 20	Paolo Bernascone	7	×
ケダルナート	6,940 m	"	9 / 1 ~ 10 / 10	Georgio Bisotti	4	×
テレイサガール	6,904 m	スペイン	5 / 1 ~ 6 / 15	Eloy Pascual	7	×
バギラテイ2峰	6,512 m	アメリカ	4 / 20 ~ 6 / 15	Paul G. Gagner	2	×
バギラテイ3峰	6,454 m	フランス	5 / 10 ~ 6 / 30	Pierre Faivre	4	○ (南西壁)

山名	高度	国名	期間	隊長名	隊員	結果
カルチャクン	6,632 m	西ドイ	5/4~6/17	Peter Muerman	10	○
バギラティ2峰	6,512 m	"	"	"	"	○ (北東面)
スメル・パルバット	6,350 m	"	"	"	"	× (北壁)
バギラティ2峰	6,512 m	ポーランド	9/1~10/15	Janusz Baranek	9	○
シブリ	6,543 m	オーストラリア	6/1~7/5	Miss B. S. L. Muir	4	× (南壁)
"	" m	イギリス	8/1~8/31	G. M. Hornby	6	○ (南壁)
"	" m	西ドイ	8/25~10/15	Gunter Houter	12	○ (西面)
メル	6,660 m	イギリス	9/1~10/15	John F. Jones	4	× (東壁)
メル - 北峰	6,450 m	スエーデン	9/1~10/25	Aake Nilsson	9	×
メル - 中央峰	6,261 m	"	"	"	"	×
無名峰	6,509 m	イギリス	9/1~9/30	A. D. Perkins	4	×

### インドヒマラヤ1985年インド隊の記録

山名	高度	期間	隊及び隊長名	隊員数	結果
ス	7,135 m	5/25~6/30	Nanga Mountaineering Club, Baramulla, J & K. Shri Daljit Singh.	14	(東稜)
無名峰 (Drung - Drung)	6,550 m	7/28~8/31	Bangalore, Shri C. Nagaraju.	10	
ストック・カンリ	6,153 m	7/2~7/31	High Altitude Warfare School. Sonamarug, J & K.	—	○
D - 41	5,813 m	8/20~9/19	Institute of Exploration, Calcutta. Shri Shaukat Ali Mondal.	12	

ホワイトニードル	6,500 m	9 / 2 ~ 9 / 30	J&K Mountaineering & Hiking Club, Shri F.A.Bala.	17	
マナリ・ピーク	5,669 m	4 / 22 ~ 5 / 22	N.C.C. Boys Expedi yion.		×
デイオ・テイバ	6,001 m	5 / 20 ~ 6 / 20	Nagpur Mountaineers, Nagpur.	10	×
ノルブ・ピーク	5,428 m		Shri Rajendra Chitwar .		○
ラダ - キ	5,342 m	5 / 15 ~ 6 / 7	Ruparel College, Bombay.	9	○
フレンドシップ	5,152 m		Makarand P. Karkare.		○
マナリ・ピーク	5,669 m				○
シテイダール	5,250 m				○
フアブラソ	6,349 m	5 / 8 ~ 6 / 17	Students Gymkhana, Bombay. Shri Anil Bhargava.	8	○
C B 53	6,096 m	6 / 23 ~ 7 / 29	Jadavpur University Mountaineering & Hiking Club, Calcutta.	11	×
C B 54	6,096 m		Shri Surandan Ghosh.		○
無名峰 (Near Baihali Jot)	6,069 m	7 / 15 ~ 8 / 31	Himalayas Beckon, Hooghly, ( W.B.) Shri Narayan Mitra	11	◎
パズラ	6,451 m	7 / 21 ~ 8 / 31	Mountaineers & Trekkers Asso.	10	○
デバチェン	6,200 m	~	Howrah. Mrinmoy Mitra.		○
セントラル	6,285 m	8 / 15 ~ 9 / 15	Crescent Club, Burdwan.	12	×
ライオン	6,164 m		Shri A. K. Chatterjee.		○
ガングスタ	6,162 m	8 / 16 ~ 9 / 15	Calcutta. Aarohan.		
ガングスタ	6,162 m	8 / 18 ~ 9 / 14	Himarohi, Parganas. Prof. B. Pramanik.	14	○
シ	6,132 m	8 / 1 ~ 8 / 31	The Climbers Group, Calcutta.	12	○
ガン・ネルダ	6,303 m		Shri Bishnu. P. Roy.		○

山名	高度	期間	隊及び隊長名	隊員数	結果
M-1	5,730 m	8/10~9/15	Explores & Adventures, Bomby. Shri M. S. Shankaran.	9	×
M-7	6,340 m				×
M-8	6,096 m				×
M-10	5,852 m				○
ガンダスタ 無名峰	6,162 m 5,486 m	7/15~8/15	All Airlines Recreation Club, Calcutta. Shri Shyamala Kr. Tah.	10	
KR-4	6,340 m	8/25~9/19	Shikhar Mountaineering Club, Calcutta.	12	×
KR-5	6,258 m		Shri Bilwa Nath Ghosh.		×
M-4	6,517 m	9/15~10/15	Tour Cultural Society & Travello, Calcutta.	12	×
M-7	6,340 m		Shri Sodhan Sengupta.		×
ディオ・テイバ	6,001 m	9/18~10/26	YHAI, Bomby. Shri V. G. Deshpande.	10	○ (隊長死亡)
ディオ・テイバ	6,001 m	4/25~5/25	Pioneer Adventure Society, Bikaner. Shri Magan Bissa.	28	○
ハヌマンテイバ-II	5,516 m	9/11~10/5	DVC Mountaineers Association, Durgapur. Kamales Chakravarty.	5	×
パプス ラ	6,451 m	6/5~6/20	Young Alpiners, Bomby.	10	○
ア ン ド ユ リ	6,000 m		Shri Zuzer Rangwala.		○
ダ ラ ム ス ラ	6,445 m				○
シ ブ リ ン	6,543 m	3/20~4/20	Army Everest Expedition, Col. D. N. Tankha.		○
テ ル -	6,002 m	4/20~5/15	Himalayan Enjoyers Association, Chittaranjan. Shri K. S. Banerjee.		○



バルテクンタ キルティ・スタンプ	6,578 m 6,270 m	4 / 24 ~ 6 / 4	Bharat Parbatarohis. Shri A. K. Sen.	10	
ルドウガイイラ	5,819 m	4 / 21 ~ 5 / 20	Aarohi, Bokara Steel Mth. Lover Circle. Shri B. P. Singh.	10	○
スリカイラス	6,932 m	4 / 15 ~ 5 / 15	Giri Premi, Pune. Shri Nandu B. Page.	5	×
テ ル	6,002 m	5 / 18 ~ 5 / 30	Snehseva Trust, Pune. Shri Vijay Waman Damla.	8	○
ブリグパント ジョギン - II	6,772 m 6,342 m	5 / 15 ~ 6 / 30	Sita Niwas, Bomby. Shri Jayant Khadalia	6	
スワロガロフイニ	6,252 m	5 / 20 ~ 6 / 30	New Delhi. Shri Sanjeev Saith.		
ジョギン - I ジョギン - III	6,465 m 6,116 m	5 / 10 ~ 6 / 9	The Climbers, Bangalore. Shri N. Kamlesh.		×
コテシュワール	6,035 m	5 / 1 ~ 5 / 30	Himalayan Enjoyers Asso. Shri Bijoy Kumar Dutta.	8	○
カリンデイ	6,102 m	5 / 1 ~ 5 / 31	The Peakers, Asansol. Shri Milam Sengupta.	10	○
スリカイラス	6,932 m	5 / 15 ~ 6 / 15	Bhavanagar University, Shri M. M. Dave.	5	×
無 名 峰 " (Kalindi Khal area)	6,166 m 6,351 m	5 / 2 ~ 5 / 27	Burdwan University, Burdwan. Shri Bidyut Roy.	8	
ジャオンリ	6,632 m	5 / 25 ~ 6 / 25	QNGC Himalayan Asso., Dehra Dun. Shri A. P. Kale.	8	

山名	高度	期間	隊及び隊長名	隊員数	結果
カメット	7,756 m	5/15~6/30	Nature & Adventure Club, Jamnagar. Shri Nandlal Purohit.	15	×
バルテエインチ ダカニ	4,691 m 4,554 m	5/15~6/14 ~	Giri Brahman, Pune. Dr. G. R. Patbordhan.	2	○ ○
ルドゥガイラ	5,819 m	5/10~6/10	Mountain Lovers Asso., Aurangabad.	6	○
チヨタ・ナグ ルインサラ スワロガロファイニII スワロガロファイニIII カラ・ナグ バラスカ	5,220 m 5,480 m 6,247 m 6,209 m 6,387 m 5,530 m	5/11~6/14	Giri Vihar, Bomby. Shri Anil Kumar.	13	○ ○ ○ ◎ ○ ○
無名峰	6,721 m	5/6~6/11	Mountaineering Club, Allahabad University. Shri Dinesh Kumar.	4	
ドラウプティ・カ・ ダンダ	6,000 m	5/10~6/10	New Delhi. Shri Maninder Kohli.	6	
無名峰 (Matri Gl.)	5,931 m	5/6~6/9	Pune. Shri V. Y. Gangal.	4	○
マトリ	6,720 m	5/10~6/9	Pune. Dr. Minoo Mehta.	2	×
バンダールブンチ	6,320 m	6/30~7/30	Nature & Adventure Club, Jamnagar. Dr. M. Q. Vahanvati.	7	
チル コテシユワール	6,002 m 6,035 m	6/1~6/30	YHAI, Pune. Miss. S. Prabhu.	12	

カラナグ (Banderpunch)	6,387 m	6 / 16 ~ 7 / 14	Trial Adventure Club, New Delhi. Shri Anil Juneja.	10	
スリカイラス 無名峰	6,932 m 6,096 m	6 / 15 ~ 7 / 15	New Delhi. Shri Romesh Bhattacharjee.	9	
ジョギン - III ジョギン - I	6,116 m 6,465 m	6 / 9 ~ 6 / 27	Stephens College Hiking Club, Delhi. Shri Ajay Gaulehes.	11	
カリンデ 無名峰	6,102 m 6,166 m	7 / 8 ~ 7 / 31	Rock & Snow, Calcutta. Shri Bibhas Das.	5	○ ○ (北東壁)
テ コテシユワール	6,002 m 6,035 m	7 / 15 ~ 8 / 15	Indore. Miss Sadhana Koche.	8	○ ○
バギラテイ - II	6,512 m	7 / 1 ~ 7 / 31	Cave Explorers, Bomby. Shri R. S. Mahadik.	6	○
マ	7,272 m	8 / 15 ~ 10 / 15	Holiday Hikers Club, Bomby. Shri P. Bodhane.	15	
カラナグ	6,387 m	8 / 10 ~ 9 / 10	Mountaineers Youth Ring, Calcutta. Shri Hemendra Nath Pal.	12	×
カメット	7,756 m	7 / 10 ~ 8 / 10	Karnataka Mountaineering Asso. Bangalore. Shri K. R. Lavaraju.	16	
バルテクンタ	6,578 m	8 / 30 ~ 10 / 6	Bharat Outward Bound Pioneers, Pune.		(北面)
アビガミン	7,355 m	8 / 1 ~ 8 / 30	Assam Mountaineering Asso, Guwahati. Shri Ajit Ch. Deka.	20	○
アビガミン カメット	7,355 m 7,756 m	8 / 30 ~ 9 / 10	Climbers & Explores Club. Shri S.K. Mehta.	15	○ ○

山名	高度	期間	隊及び隊長名	隊員数	結果
ガンゴトリ—II	6,590 m	8/19~9/14	Qrdnan Factory Trekkers. Shri Swapan KR. Bandhopadhyaya.	13	○
無名峰 (in upper Gangotri)	6,135 m	8/27~9/15	Himalayan Forum, Calcutta. Shri Asit Kumar Moitra.	2	○
シブリン	6,543 m	8/15~9/15	Him-Sagar Trekking Mountaineering & Adventure Institute, Bihar. Shri M. M. Singh.	6	
サイフイ	6,166 m	8/1~9/1	Pune Venturers "Shraddha", Pune. Shri S. G. Kath.	8	×
アバランチ	6,443 m	8月~9月	Trekkers & Climbers, Howrah (W.B.)		
スワロガロフイ—I	6,252 m	9/9~10/9	Gangotri Glacier Exploration. Committee, Calcutta.		
スワロガロフイ—II	6,248 m				
テル	6,002 m	9/1~9/30	Durgapur Mountaineers Asso., Durgapur. Shri Nidhir Kr. Pal.	9	○
コテシュワール—I	6,035 m				○
コテシュワール—II	5,690 m				×
無名峰	6,166 m				×
無名峰	5,962 m	9/21~10/20	Pune. Shri S. S. Iyer.	4	×
カリンデ	6,126 m	9/10~10/10	Tata Youth Adventure Centre, Tata Iron & Steel Co., Bihar.	18	○
無名峰	6,443 m				×
無名峰	6,291 m		Shri P. K. Dey.		×
チャンドラパルバット	6,728 m				×
ジョギン—I	6,465 m	9/15~10/15	Garhwal Rifles Regimental Centre Lansdowne.	30	
ジョギン—II	6,342 m				



テント・ピーク	6,113 m	9/15~10/15	Coalfield Climbers Circle, Burdwan (W.B.)		
スリカイラス	6,932 m	9/15~10/15	P&T Mountaineers Asso. Calcutta. Kiran Mukherjee.	10	○
マイクトト	6,803 m	9月 ~ 10月	Shivalik Trekking & Climbing Asso. Dehra Dun.		
無名峰	6,304 m	9/15~10/12	Qrdnance Factory Trekkers & Mountaineers, Parganas.	7	
無名峰	6,407 m				
サトパントト	7,075 m	9/1~9/30	AFTMSA, Air Force Station. U. K. Palat.	6	(北面)
無名峰	6,181 m	9/15~10/12	Diganta Calcutta, Shri Mridul Bose.	9	○
(Kalindh Gl.)					
リムラ	6,200 m	9/2~10/8	Climbers Circle, Calcutta.	12	×
ラチャ・ウイ-	6,290 m		Shri Achinbya Banerjee.		
ラジ・ラソバ	6,537 m	9/3~10/4	Himachakra Mtg. Club. Hooghly.	11	×
チャウドウラ	6,511 m		Shri Arun Gupte.		
無名峰	6,134 m	9/8~10/4	The Add-Venturer, Calcutta.	10	○
無名峰	6,565 m		Shri Asit Kumar Moitra.		×
無名峰	5,919 m	9/5~10/5	Coalfields Climber Circle, Burdwan.	10	
(Near Tent Pk.)			Shri Nabaran Banerjee.		
無名峰	6,135 m	9/1~10/11	Himalayan Association, Calcutta.	2	○
			Shri Bharatbushan Nayak.		
インドラサン	6,221 m	8/14~9/10	Rock Climbing School, Calcutta.	8	
			Shri D. Bhattacharya.		
グ	5,709 m	9/14~10/18	Chandan Nagar Mountaineering Asso., Kalyan	8	×
無名峰	5,729 m		Banik.		×
ラダ-キ	5,342 m	9/10~10/10	N. C. C. Girls Exp.		

# インドヒマラヤの日本隊による遭難事故の実態 (1980年～1985年)

山名	高度	州	事故日	遭難高度	死者	原因	事故の状況
パンワリ・ドワール	6,663 m	U.P	80. 1. 29		1	雪崩	C.1 (4,600 m) から BC (3,700 m) に向けて下山中の 3 隊員が雪崩に流されて 1 隊員が行方不明となる。
ク	7,077 m	J.K	81. 8. 8	4,950 m	1	肺水腫	C.2 (6,250 m) への高度経験を踏んだ後、A, BC で発病し 2 日後に死亡。
ドゥルン・ドゥルン氷河	—	J.K	81. 8. 10~	5,170 m	1	転落	氷河歩行中にヒドン・クレバパスに転落し、クレバパス内の伏水流に浸って凍死。
ホワイト・セーラー	6,446 m	H.P	81. 9. 10~	?	3	雪崩?	9/10 に 3 名で 5,700 m 地点より頂上を狙うことになっていたが、9 ~ 10 日の悪天候の中で 3 名とも消息を絶つ。
ジャオ・ソリ	6,632 m	U.P	81. 9. 23	6,000 m	4-1	雪崩	C.2 (5,530 m) を出た隊員 4 名と H.P. 2 名は、前日の最高到達点を越えてさらに登行を続けている途中、トップの足元から表層雪崩が発生して巻きこまれる。
ナンダ・カート	6,611 m	U.P	81. 9. 27~	6,000 m	7	雪崩	C.3 (6,000 m) の 7 名が 27 日、18 時の交信を最後に消息を絶つ。後日、C.3 付近が大規模なデブリに覆われているのが発見された。
ク	7,077 m	J.K	82. 8. 9	6,000 m	1	落石	C.2 (6,200 m) の荷揚げを終えて C.1 (5,300 m) へ下る途中、上部で岩石雪崩が発生し、その落石が頭部に当たり即死の状態に陥り約 500 m 程飛ばされる。
ヌ	7,135 m	J.K	82. 8. 18	6,580 m	1	疲労凍死	C.3 から 4 名でアタックに向かったが、隊員の一人は途中で不調となり、登頂を断念して一人で C.3 へ戻る途中に死亡。
ヌ	7,077 m	J.K	84. 9. 10	6,900 m	1	雪崩	東稜からアタックに向かった 2 名は、6,900 m 地点で雪崩に遭遇し、隊長が行方不明となる。
シ	6,543 m	U.P	84. 10. 10	5,600 m	1	落石	北稜から登頂した翌日、下降途中の C.2 (5,600 m) 付近で腰部に落石を受けて死亡。
テレイサガール	6,904 m	U.P	85. 9. 20	6,300 m	1	転落	6,300 m 地点でビバークした翌日、下降を決定して懸垂下降に入ろうとした時、転落し行方不明となる。
ケダールナート	6,940 m	U.P	85. 10. 8	5,100 m	1	雪崩	5,100 m 付近で雪崩事故が起り、隊員 1 名が行方不明となる。

## — 最近の日本隊の登山者数と遭難 —

	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	計
登山隊数	20 隊	13 隊	19 隊	23 隊	17 隊	16 隊	108 隊
登山者数	174 人	81 人	111 人	131 人	110 人	105 人	712 人
遭難者数	1 人	15 人	2 人	0 人	2 人	2 人	22 人
死亡率	0.57 %	18.52 %	1.80 %	0 %	1.82 %	1.90 %	3.9 %

## 地域ニュース

### 《ネパール》

#### ネパール・ルピー大幅切り下げ

1985年11月30日よりネパール・ルピーが14.5%も切り下げられた。これは、ここ25年間で一番の大幅切り下げとなった。

新レートは、以下の通り

100インド・ルピー = 170ネパール・ルピー  
(以前は、100 I・Rs = 145 N・Rsであった。)  
1 U・Sドル = 20.5ルピー

ネパール・ラストラ銀行では、1985年12月29日で41歳の誕生日を迎えられたビレンドラ国王を記念して次の硬貨を発行することになった。

(a) 5ルピー硬貨(ニッケル-銅製)

直径29mm。デザインは、表面にビレンドラ国王とビクラム歴2042年。裏面には、真中にIYY(International Youth Year)のシンボルと国際青年年2042年の文字。

(b) 100ルピー硬貨(銀60%の合金製)

直径33mm。デザインは、表面に国王の名前とビクラム歴2042年、貨幣単位。表面には周囲にIYY1985年。中心にIYYのシンボル。

それから、ネパールの4番目の商業銀行としてネパール・グリンドリ銀行が開業することになった。この銀行の所有者権は、ロンドンのグリンドリ銀行が50%、ネパール銀行が35%、残りの15%がネパール国家となっている。

#### '85年ネパールヒマラヤ秋と冬

'85年秋のネパールヒマラヤでは、アラビア海とベンガル湾から大型のサイクロンが3度も来襲して大荒れとなり、24名の死者が出た。(シェルパ6名、インドとポーランド人が各々5名。アメリカ、フランス、西ドイツ、ギリシャ人が各々2名)

秋の隊は、49隊が入山したが、そのうち34隊が

異常な降雪、強風、寒気などにより断念した。

8,000 m峰へは19隊が挑んだが、成功したのはエベレスト(日本隊)、マカルー(イタリア隊)、チョー・オー(日本隊)の3隊だけであった。

秋の外国隊数は以下の通り。( )内は成功隊数  
日本11(4)、フランス5(1)、ポーランド5(2)、アメリカ4(1)、スペイン4(1)、韓国4(2)、西ドイツ3(1)、イギリス2(1)、オランダ2(1)、オーストリア2(2)、イタリア2(2)、スイス、チェコスロバキア、ユーゴスラビア、ギリシャ、インドが各1隊。

一方、冬期シーズンには10ヶ国から17隊が挑み、この内12隊が8,000 m峰を目指した。日本からは12月14日に登頂成功した山田昇、斉藤安平のペアに依るマナスル隊と電々山岳同志会が中心となって結成された熊本ヒマラヤ登山隊(馬場博行隊長57名)に依るマカルー主峰の2隊だけ、マカルー隊は断念。

韓国隊は6隊で、その内3隊がエベレスト。東南稜、南西壁、西稜の各ルートに挑んだが、いずれも強風のため登山を断念した。

その他の外国隊は以下の通り。

ポーランド2隊、ニュージーランド、アメリカ、カナダ、スペイン、スイス、イタリア、ブルガリアが各1隊。

### 《インド》

#### サリーン氏、デリーへ戻る

インド登山財団(IMF)の総裁で、在ネパールのインド大使のハリッシュ・C・サリーン氏は此の度、大使を退任され、ニューデリーへ戻られた。後任にはArvind Ramchandra Deo氏(54歳)が就任された。

### 《パキスタン》

#### '85年パキスタン登山隊

パキスタン観光省発表による1985年のパキスタン登山隊の概要は以下の通りである。

1. アプリケーション数 71隊

2. キャンセル数 9 隊
3. 入山登山隊数 62 隊
4. 登山者数 398 人
5. 登頂されたピーク数 32 山
6. 登山料の収入総額 Rs. 1,303,004.00
7. 地区別登山隊数 スカルド (38)、ギルギット (10)、ディアミール (12)、チトラル (2)
8. 国別登山隊数 ( )内は登山者数  
日本 12 (78)、フランス 7 (48)、イタリア 6 (65)、スイス 5 (52)、イギリス 5 (28)、ポーランド 5 (38)、オーストリア 4 (24)、アメリカ 4 (24)、スペイン 2 (11)、スウェーデン 1 (8)、カナダ 1 (4)、オランダ 1 (4)、ユーゴスラビア 1 (7)、ポーランド・パキスタン合同 1 (16)
9. 遭難者数 8 名死亡  
(尚、詳細は次号にて紹介します。)

## インフォメーション

### インド政府観光局に新局長就任

東京・銀座 7 丁目のパールビル内にあるインド政府観光局の東アジア地区総局長として K.B シン氏 (Mr. K.B. Singh) が着任された。

シン氏は 1931 年のお生まれで当年 54 才、独身。1954 年にデリー大学を卒業後、1957 年にインド政府観光局に入省。本局では長期計画部長やホテル担当部長などを歴任。ワシントン、ロサンゼルス、シドニーなど在外経験も豊富な方である。

尚、パイ前局長 (Miss. V. Pai) はマドラスの観光局長に転任された。

また、同局東京事務所のアシスタント・ディレクターとしてラム・クリシャン氏 (Mr. R. Krishan) が着任された。同氏は 1933 年お生まれの 52 才。

### 中国登山研究会

H A J では 1986 年 7 月～8 月に四川省登山協会と合同で「雪宝頂 (5,852 m)」登山を実施する。この登山は四川省人民政府挙げての合同登山であ

り、この議定のために代表団が来日することになった。この機会を得て「中国登山研究会」を下記の通り実施します。

記

日 時 3 月 2 日 (日) 13 時～16 時  
場 所 大正セントラルホテル会議室

定 員 40 名  
会 費 2,500 円 (資料代込み)  
講 師 四川省登山協会副主席他  
申し込み H A J 事務局 ☎ 03 (367) 8521  
(参加希望者は、必ずお申し込み下さい。)

### 第 7 回高所順応研究会開催

ヒマラヤへ出かける各登山隊から好評を博している東京都山岳連盟主催の標記研究会が下記の通り開催されます。

記

日 時 3 月 9 日 (日) 9 時～16 時  
場 所 目黒さつき会館  
(山の手線目黒駅下車、徒歩 5 分)

参加費 3,000 円 (昼食代含む)  
内 容 1) 高度障害の実例と医師の所見  
(ブータン、ガンケル・ブンズム隊他による実例報告)  
2) 講演「私の高所登山」  
講師：大宮 求 (山学同志会)  
対 象 高所登山に興味のある方、また具体的計画をお持ちの方  
申し込み法 所属団体名、住所、氏名を明記し、現金を添えて申込むこと。  
問合わせ・申込み先 東京都山岳連盟海外委員会

### 東京集会のお知らせ

2 月の東京集会は下記の通りです。皆さんお問い合わせの上、お出かけ下さい。

日 時 2 月 24 日 (月) 19 時～  
場 所 H A J ルーム



# トータル獲得標高 1985

山森 欣一

今日のヒマラヤでは、登山観の多様化を反映してさまざまな方法が試みられている。自然条件としては最も困難な登山を強いられると見られる冬期8,000 m峰にも、日本隊だけでも既に14隊が挑戦している。(4隊が成功)又、8,500 mの巨峰に対するO<sub>2</sub>レス登山も実践され、近年特に論議を呼んでいる、アルパインスタイルも8,000 m峰を舞台として試みられつつある。特に1985年冬に山田昇、斉藤安平の両氏によって実践されたマナスル峰の登頂記録は、高い評価を受けるであろう。勿論、このように登山観の多様化した時代の記録に対して、どのように整理し、どのような評価を与えて行くかは、難しい問題である。そこで私は、ヒマラヤ142号において、このような時代のヒマラヤニストの評価の一方法として、7,000 m以上の峰の複数登頂者を対象とした「トータル獲得標高」を提案した。今回はその第三回となる。考え方は142号に書いたとおりであるが、バミールキャンプのような登山も同一に取り扱うことに対しては、多少の抵抗もあるが、もうしばらくは現在のまま続けてみたいと思う。

## 20,000mを超えた男たちの概要

1985年12月31日現在

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
1	山田 昇 (82,627 m) 10 座  (35才)	a.ダウラギリ I	8,167	N	1978.10.14	群馬県山岳連盟	南東稜	初登攀	1
		b.カンチェンジュンガ主峰	8,586	N	1981. 5. 9	H A J	南西面		
		c.ランタン・リ	7,205	N	1981.10.10	"	南西稜	初登頂	
		d.ダウラギリ I	8,167	N	1982.10.18	カモシカ同人	北西稜	初登攀	
		e.ローツェ	8,516	N	1983.10. 9	"	西面	日本人初	
		f.サガルマータ	8,848	N	1983.12.16	"	東南稜	冬期第三登	
		g.マモストーン・カンリ	7,516	I	1984. 9.13	H A J	北東稜	初登頂	
		h.K 2	8,611	P	1985. 7.24	"	南東稜	O <sub>2</sub> レス	
		i.サガルマータ	8,848	N	1985.10.30	植村直己物語	"	"	
		j.マナスル	8,163	N	1985.12.14	カモシカ同人	北西面	冬期第二登	
2	重広 恒夫 (56,388 m) 7 座  (38才)	a.ナンダデヴィ東峰	7,434	I	1976. 6. 9	J A C	南稜	日本人初	4
		b.K 2	8,611	P	1977. 8. 8	J M A	南東稜	第二登	
		c.ラトック I	7,145	P	1979. 7.19	京都カラコルムC	南壁	初登頂	
		d.チョモランマ	8,848	C	1980. 5.10	J A C	北壁	初登攀	
		e.カンチェンジュンガ中央峰	8,482	N	1984. 5.18	"	南峰からの縦走		
		f.マッシュャープルム	7,821	P	1985. 7.23	関西カラコルム	北西壁	初登攀	
		g.ブロード・ピーク	8,047	P	1985. 8.12	"	西稜		
3	尾崎 隆 (51,008 m) 6 座  (33才)	a.ブロード・ピーク	8,047	P	1977. 8. 8	愛知学院大学	西稜	第二登	2
		b.チョモランマ	8,848	C	1980. 5.10	J A C	北壁	初登攀	
		c.マナスル	8,163	N	1981.10.12	イエティ同人	北東面		
		d.ローツェ	8,516	N	1983.10. 9	カモシカ同人	西面	日本人初	

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	★
		e.サガルマータ f.カンチェンジュンガ主峰	8,848 8,586	N N	1983.12.16 1984. 5.19	カモシカ同人 J A C	南東稜 南西面	冬期第三登	
4	田部井 淳子 (46,149 m) 6 座  (46才)	a.アンナプルナⅢ b.サガルマータ c.シシャバンマ d.コルジェネフスカヤ e.コミュニズム f.レーニン	7,555 8,848 8,012 7,105 7,495 7,134	N N C S S S	1970. 5.19 1975. 5.16 1981. 4.30 1985. 7.28 1985. 8. 7 1985. 8.15	女子登攀クラブ " " " " "	南西面 東東稜 北東面	女性初	11
5	原 真 (43,956 m) 6 座  (49才)	a.コルジェネフスカヤ b.コルジェネフスカヤ c.シシャバンマ d.コルジェネフスカヤ e.コミュニズム f.レーニン	7,105 7,105 8,012 7,105 7,495 7,134	S S C S S S	1976. 8. 7 1982. 7.31 1982.10.10. 1985. 7.21. 1985. 7.29 1985. 8. 6	J A C 東海 高山研究所 " " " "	北東面		28
6	×加藤 保男 (42,523 m) 5 座	a.サガルマータ b.ナンダデヴィ主峰 c.チョモランマ d.マナスル e.サガルマータ	8,848 7,816 8,848 8,163 8,848	N I C N N	1973.10.26 1976. 6.15 1980. 5. 3 1981.10.14 1982.12.27	R C C II J A C " イエティ同人 "	南東稜 南 稜 北東稜 北東面 南東稜	秋期初 日本人初  冬期第二登	3
7	和田 城志 (39,030 m) 5 座  (36才)	a.гентⅡ b.ランタン・リルン c.カンチェンジュンガ主峰 d.マッシュブルム e.ブロード・ピーク	7,342 7,234 8,586 7,821 8,047	P N N P P	1978. 7.15 1978.10.24 1984. 5.20 1985. 7.23 1985. 8.12	関西学生岳連 大阪市立大学 J A C 関西カラコルム "	北 面 南東面 南西面 北西壁 西 稜	初登頂  初登攀	20
8	高橋 和之 (37,911 m) 5 座  (45才)	a.ダウラギリⅣ b.ローツェ c.コルジェネフスカヤ d.コミュニズム e.レーニン	7,661 8,516 7,105 7,495 7,134	N N S S S	1975.10.19 1983.10.11 1985. 7.21 1985. 7.28 1985. 8. 6	カモシカ同人 " 高山研究所 " "	南 面 西 面	第二登 日本人初	39
9	川村 晴一 (33,755 m) (38才)	a.クンバカルナ b.カンチェンジュンガ主峰 c.チョゴリ d.サガルマータ	7,710 8,586 8,611 8,848	N N C N	1976. 5.11 1980. 5.14 1982. 8.15 1983.10. 8	山学同志会 " J M A 山学同志会	北 壁 " 北 稜 南東稜	初登攀 " " O <sub>2</sub> レス	5
10	三谷 統一郎 (32,173 m) (27才)	a.アンナプルナ・ダクシン b.ダウラギリⅠ c.カンチェンジュンガ主峰 d.チャー・オユール	7,219 8,167 8,586 8,201	N N N N	1978.10.16 1982.10.17 1984. 5.20 1985.10. 3	明治大学 高松 労山 J A C カトマンズクラブ	南西稜 北東稜 南西面 南西壁	初登攀  日本人初	
11	八木原 罔明 (32,014 m) (39才)	a.ダウラギリⅣ b.ヤルン・カン c.シチュ・ダケ南峰 d.サガルマータ	7,661 8,505 7,000 8,848	N N N N	1975.10.21 1981. 5. 9 1984. 5.20 1985.10.30	カモシカ同人 H A J " 植村直己物語	南 面 南東面 東 稜 南東稜	第二登  初登攀	19

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	★
12	富田 雅昭 (30,768 m) (29才)	a. マナスル b. コルジェネフスカヤ c. コミュニズム d. シシャパンマ	8,163 7,105 7,495 8,012	N S S C	1981.10.14 1982. 7.31 1982. 8. 5 1982.10.12	イエティ 同人 高山研究所 " "	北東面   北東面		6
13	遠藤 晴行 (30,582 m) (28才)	a. サガルマータ b. コルジェネフスカヤ c. コミュニズム d. レーニン	8,848 7,105 7,495 7,134	N S S S	1983.10. 8 1985. 7.20 1985. 7.28 1985. 8. 6	イエティ 同人 高山研究所 " "	南東稜	O <sub>2</sub> レス	
14	山本 宗彦 (30,497 m)	a. レーニン b. コミュニズム c. マッシュャーブルム d. ブロード・ピーク	7,134 7,495 7,821 8,047	S S P P	1983. 7.27 1983. 8. 6 1985. 7.23 1985. 8.12	J A C " 関西カラコルム "	北西壁 西稜	初登攀	
15	千葉 孝義 (30,031 m) (40才)	a. ダウラギリ II b. シシャパンマ c. レーニン d. レーニン	7,751 8,012 7,134 7,134	N C S S	1979.10. 8 1982.10.12 1983. 7.29 1985. 8. 6	カモシカ 同人 高山研究所 J A C 高山研究所	II・III・ 北東面	V峰縦走	23
16	村上 和也 (25,975 m) (30才)	a. ローツェ b. サガルマータ c. K 2	8,516 8,848 8,611	N N P	1983.10. 9 1983.12.16 1985. 7.24	カモシカ 同人 " H A J	西面 南東稜 "	日本人初 冬期第三登	30
17	×吉野 寛 (25,626 m)	a. ダウラギリ I b. チョゴリ c. サガルマータ	8,167 8,611 8,848	N C N	1978. 5.11 1982. 8.14 1983.10. 8	イエティ 同人 J M A イエティ 同人	南稜 北稜 南東稜	初登攀 " O <sub>2</sub> レス O <sub>2</sub> レス	7
18	×禿 博信 (25,626 m)	a. ダウラギリ I b. チョゴリ c. サガルマータ	8,167 8,611 8,848	N C N	1981. 6. 2 1982. 8.15 1983.10. 8	高山研究所 J M A イエティ 同人	北東稜 北稜 南東稜	単独 初登攀 O <sub>2</sub> レス O <sub>2</sub> レス	8
19	鈴木 昇己 (25,144 m) (34才)	a. クンパカルナ b. カンチェンジュンガ主峰 c. サガルマータ	7,710 8,586 8,848	N N N	1976. 5.11 1980. 5.14 1983.10. 8	山学同志会 " "	北壁 " 南東稜	初登攀 " O <sub>2</sub> レス O <sub>2</sub> レス	9
20	坂下 直枝 (24,907 m) (38才)	a. クンパカルナ b. カンチェンジュンガ主峰 c. チョゴリ	7,710 8,586 8,611	N N N	1976. 5.11 1980. 5.14 1982. 8.14	山学同志会 " J M A	北壁 " 北稜	初登攀 " O <sub>2</sub> レス "	10
21	宮崎 勉 (24,344 m) (38才)	a. ダウラギリ IV b. ダウラギリ I c. ローツェ	7,661 8,167 8,516	N N N	1975.10.21 1978.10.19 1983.10.10	カモシカ 同人 群馬県山岳連盟 カモシカ 同人	南面 南東稜 西面	第二登 初登攀 日本人初	12
22	重野 太肚二 (23,923 m) (42才)	a. プモリ b. ダウラギリ I c. チョゴリ	7,145 8,167 8,611	N N C	1973. 5. 1 1978. 5. 8 1982. 8.15	登攀クラブ イエティ 同人 J M A	南稜 南稜 北稜	初登攀 " O <sub>2</sub> レス	14
23	大宮 求 (23,643 m) (36才)	a. カンチェンジュンガ主峰 b. シシャパンマ c. サトバント西峰	8,586 8,012 7,045	N C I	1980. 5.17 1982.10.12 1983. 5.22	山学同志会 高山研究所 山学同志会	北壁 北東面 北西稜	初登攀 O <sub>2</sub> レス 初登頂	15

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	※
24	小松幸三 (23,579 m) (31才)	a.ダウラギリⅣ b.ダウラギリⅡ c.ダウラギリⅠ	7,661 7,751 8,167	N N N	1975.10.21 1979.10.13 1982.10.18	カモシカ同人 " "	南面 Ⅱ・Ⅲ・ 北西稜	第二登 V峰縦走 初登攀	16
25	高見和成 (23,570 m) (40才)	a.カンビレディオール b.ナンダデヴィ主峰 c.チョゴリ	7,143 7,816 8,611	P I C	1975. 6.14 1976. 6.15 1982. 8.15	広島山の会 J A C J M A	北西稜 主峰～ 北稜	初登頂 東峰縦走 初登攀O <sub>2</sub> レス	17
26	尾形好雄 (23,561 m) (37才)	a.ヒマルチュリ西峰 b.ヤルン・カン c.マモストーン・カンリ	7,540 8,505 7,516	N N I	1978. 5. 7 1981. 5. 9 1984. 9.15	雪と岩の会 H A J "	南西稜 南東面 北東稜	初登頂  初登頂	18
27	中西紀夫 (23,545 m) (27才)	a.アンナプルナ・ダクシン b.ナンガバルバット c.チョー・オユー	7,219 8,125 8,201	N P N	1978.10.16 1983. 7.31 1985.10. 3	明治大学 富山県山岳連盟 カトマンズクラブ	南西稜 西面 南西稜	初登攀 日本人初 "	
28	斉藤安平 (23,340 m) (32才)	a.ダウラギリⅠ b.ガウリサンカール・南峰 c.マナスル	8,167 7,010 8,163	N N N	1982.10.18 1984.10.19 1985.12.14	カモシカ同人 J A C・東海 カモシカ同人	北西稜 南東稜 北東面	初登攀 " 冬期第二登	
29	吉田憲司 (23,290 m) (32才)	a.ハチングール・キッシュ b.マモストーン・カンリ c.K 2	7,163 7,516 8,611	P I P	1982. 8. 4 1984. 9.13 1985. 7.24	金沢大学 H A J "	東壁 北東稜 南東稜	初登頂 " "	
30	平林克敏 (23,014 m) (51才)	a.アピ b.サイパル c.サガルマータ	7,132 7,034 8,848	N N N	1960. 5.10 1963.10.21 1970. 5.12	同志社大学 " J A C	北面 南面 南東稜	初登頂 " 日本人初	21
31	×小林利明 (22,939 m)	a.ダウラギリⅠ b.シア・カンリ c.バルトロ・カンリ	8,167 7,422 7,350	N P P	1978. 5. 8 1979. 7.30 1979. 8. 4	イエティ同人 京都カラコルムC "	南壁 南西面 北東面	初登攀  "	22
32	×角田不二 (22,760 m)	a.トリスルⅠ b.ヤルン・カン c.ヌン	7,120 8,505 7,135	I N I	1978. 9.28 1981. 5. 9 1983. 8.16	H A J " "	南稜 南東面 西稜	初登攀  "	24
33	駒宮博男 (22,641 m) (33才)	a.コミュニズム b.シシャパンマ c.レーニン	7,495 8,012 7,134	S C S	1982. 8. 2 1982.10.10 1983. 8. 2	高山研究所 " "	  北東面	  "	25
34	小西浩文 (22,612 m) (23才)	a.コルジュネフスカヤ b.コミュニズム c.シシャパンマ	7,105 7,495 8,012	S S C	1982. 7.29 1982. 8. 5 1982.10.10	高山研究所 " "	  北東面	  "	26
35	高橋純一 (22,344 m) (37才)	a.コミュニズム b.シア・カンリ c.ムスターグ・アタ北峰	7,495 7,422 7,427	S P C	1977. 8. 8 1979. 7.30 1981. 8.14	H A J 京都カラコルムC スピダーニエ同人	 南西面 北面	  "	27
36	松本正城 (22,247 m) (37才)	a.クン b.ヌン c.ガッシュブルムⅡ	7,077 7,135 8,035	I I P	1981. 8.27 1982. 8.18 1985. 7.28	R C C Ⅱ 東京山岳協会 横浜蝸牛山岳会	東稜 北西稜 南西稜	  "	



順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
37	7名 (21,734 m)	a. コミュニズム	7,495	S	黒沢孝夫、石川龍彦、×井波美保、松永忠則 鴨川正昭、柳沢伸子、安原真百合				
		b. レーニン	7,134	S					
		c. コルジュネフスカヤ	7,105	S					

- 注) 1) \*印欄の数字は1984年12月末現在の順位 2) 氏名の前の×印は故人  
 3) 地域のNはネパール、Pはパキスタン、Iはインド、Cは中国、Sはソ連、Bはブータンの略  
 4) 2座登頂で15,000m以上  
 鈴木茂 ×柳沢幸弘 ×植村直己 ×藤倉和美 大谷映芳 深田良一 ×坂野俊孝 中村省彌 小野寺正英  
 賀集信 西堤理一 外山哲也 片岡邦夫 保坂昭憲 上田豊 飛田和夫 八嶋寛 小泉章夫 東英樹 高橋  
 堅 寺本正史 小椋成人 ×小川信之 長谷川良典

## 複数の7,000 m 峰を初登頂した幸運な男たち

1985年12月31日現在

氏名	山名		氏名	山名	
尾形好雄	ヒマルチュリ西峰	マモストン・カンリ	人見五郎	カンペンチン	マサ・カン
河津士郎	ダウラギリ VI	ダウラギリ IV	渡辺優	ラトック I	ジュトマル・サール
山田昇	ランタン・リ	マモストン・カンリ	佐藤之敏	ウドレンゾム南峰	サラグラール南峰
吉田憲司	ハチンダール・キッシュ	マモストン・カンリ	博貞	ジュトマル・サール	マラングッティ・サール
上尾庄一郎	アンナプルナ・ダクシン	カンペンチン	杉本忠男	ア	サイパル
			平林克敏	ピ	

## 8,000 m 峰14座登頂ベスト9

1985年12月31日現在

Name	Sagal	K <sub>2</sub>	Kangche	Lhot	Mak	Chyo	Dhaul	Mana	Nanga	Anna	G I	Brod	G II	Xixaba
Reinhold Messar	1978/1980	1979	1982			1983	1985	1972	1970/1978	1985	1975/1984	1982	1982/1984	1981
Jerzy Kukuczka	1980			1979	1981	1985	1985		1985		1983	1984	1983	
Erhard Loretan		1985					1985	1984	1982	1984	1983	1983	1983	
Michael Dacher		1979	*1975	1977		1983		1984	1985		1982			1980
Marcel Ruedi		1985					1980	1984	1984		1983	1983	1983	1985
Noboru Yamada	1983/1985	1985	1981	1983			1978/1982	1985						
Kurt Diemberger	1978				1978		1960					1957/1984	1979	
Takashi Ozaki	1980/1983		1984	1983				1981				1977		
Guenter Strum			*1975	1977				1984			1982			1980

\*印はヤルン・カン登頂

## 寸 感

新春早々、IMF副総裁のJayal氏をお迎えして恒例のインドヒマラヤ会議が開催された。例年のように今年もインドからエージェントの方が参加された。然し、今年は1人だけだった。日本隊相手では商売にならない?と云う事が徐々に浸透してきた為であろうか。サービスはタダと云う感覚の日本人相手にサービスはビジネスと考えるインド人としては商売がしづらいのであろう。

経費をかけない遠征が良い遠征と云う変な風潮がはびこる昨今、自分達の能力も鑑みず、あの隊はいくらで行ったから自分達もこれでやれるだろうなどと同一視する向きが多い。最初からその考えなら最後まで貫ぬいて貫きたいものである。ビザがこない、事故が起った。と云っては、その都度便利屋としてタダで使われたのではたまらない。

## 事 務 局 日 誌 (1月)

6日(月) 仕事始め

11日(土) N. D. Jayal氏来日(成田出迎え、小

島、吉田)、同氏歓迎夕食会(高田馬場、9名)

11日(土)~12日(日) 第7回インドヒマラヤ会議(目黒さつき会館、41名)

16日(木) ヒマラヤNo.171発送

17日(金) N. D. Jayal氏さよならパーティ(高田馬場、13名)

18日(土) N. D. Jayal氏離日(成田見送り、尾形、吉田)

27日(月) 東京集会(29名)

## ヒマラヤNo.172.(3月号)

昭和61年2月10日印刷 61年3月1日発行

発行人 柴田金之助

編集人 尾形好雄

発行所 日本ヒマラヤ協会

〒160 東京都新宿区高田馬場3-23-1  
淀橋食糧ビル506号

# ヒマラヤへのステップ!

## エクスペディション & トレッキング

ネパール、インド、パキスタン、

ソ連(中央アジア)へ遠征、

トレッキングを計画の皆様へ。

航空券から登山要請、現地手配、入国査証(ビザ)代介手続き、遠征隊・トレッキング用山岳保険加入に至るまで適切なトータルアドバイス、手配を受けまわります。

ヒマラヤ以外にもヨーロッパアルプス、アフリカ、北・南・米 etc の格安航空券、情報もあります。

## 世界山岳旅行クラブ

運輸大臣登録旅行業代理店業第2809号  
住友海上火災登山トレッキング保険代理店

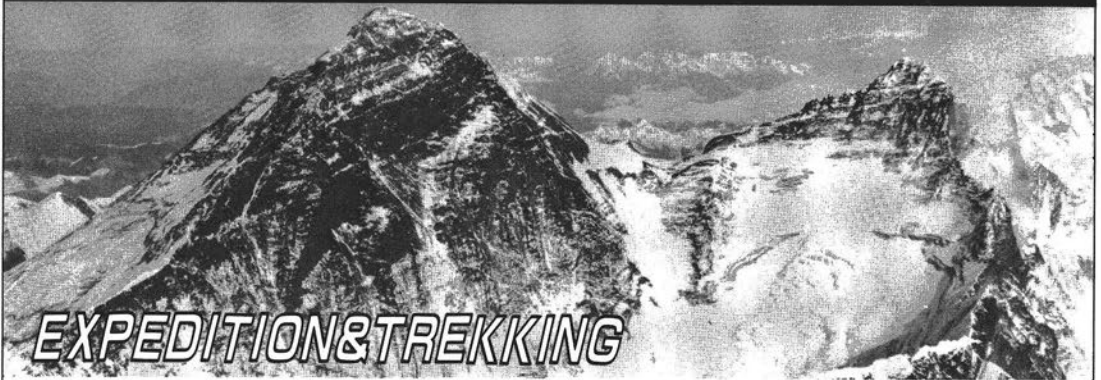
# (株)マウンテン・トリップ

〒150 東京都渋谷区恵比寿西1-8-1 かずさやビル3F 303号 ☎03-476-1200 担当 藤原

主催:株ロータリーエアサービス 〒105 東京都港区新橋2-2-4 ☎03-504-0111 担当:佐藤(一般登録第332号/取扱主任者・伊藤園子)



## TREASURE TOUR



## EXPEDITION & TREKKING

自分の旅だから、自分でつくる。そんなあなたを応援いたします。

—— 遠征隊、トレッキング、秘境への旅 ——

あらゆる申請・許可取得、現地手配、航空券、山岳保険など、  
お客様のご要望に遠征経験豊富なスタッフがご答えします。



マウンテントラベル株式会社

〒105 東京都港区新橋3-26-3 会計ビル4F

☎03-574-8880

三井航空サービス代理店2452号

カラコルムの秀峰、ウルタル山



## 遥かなる高み

トレッキング・登山隊の許可取得から航空券・現地手配までお引き受けいたします。  
～ネパール・インド・ブータン・パキスタン・東南アジア・アフリカ・南米～

トレッキング・海外登山  
シルクロード・秘境旅行  
のパイオニア



株式会社 西遊旅行

東京本社 〒101 東京都千代田区神田神保町2-2 新世界ビル5階 ☎03(237)1391(代表)  
大阪営業所 〒541 大阪市東区平野町4-53-3ニューライフ平野町202号室 ☎06(202)1391(代表)  
カトマンズ営業所 JAI HIMAL TREKKING (P) Ltd, P. O. BOX 3017  
KATHMANDU, NEPAL ☎216338  
運輸大臣登録一般旅行業 607号

# ヒマラヤへの装備



◎遠征隊の装備、相談にのります。



## ICI 石井スポーツ

- 登山本店 / 〒160 東京都新宿区百人町2丁目2番3号 ☎03 (208) 6601~3
- 大宮店 / 〒330 埼玉県大宮市宮町2丁目123番地 ☎0486 (41) 5707
- 水道橋登山店 / 〒101 東京都千代田区三崎町2丁目8番14号 ☎03 (264) 5575~6
- 神田登山店 / 〒101 東京都千代田区神田神保町1丁目8番地 ☎03 (295) 0622
- 新宿西口店 / 〒160 東京都新宿区新宿1丁目16番7号 ☎03 (346) 0301(代)
- 高崎店 / 〒370 群馬県高崎市新町6番地 ☎0273 (27) 2397(代)
- 札幌登山店 / 〒060 北海道札幌市中央区南二条西4丁目4番 ☎011 (222) 5305
- 新潟店 / 〒950 新潟県新潟市東大通2丁目5番1号 ☎0252 (43) 6330
- 仙台店 / 〒980 宮城県仙台市東八番丁107番地の36号 ☎0222 (97) 2442
- 町田ジョルナ店 / 〒194 東京都町田市原町田6丁目6番地14号 ☎0427 (26) 6248(代)
- フーズショップ / 〒160 東京都新宿区百人町2丁目2番43号 ☎03 (232) 1286
- 外商部 / 〒160 東京都新宿区大久保2丁目19番10号 ☎03 (200) 7219
- 事務所 / 〒160 東京都新宿区百人町1丁目4番15号 ☎03 (200) 1004